

科目名	言語発達障害学（Ⅰ）（脳性麻痺および学習障害を含む）			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST1年 後期
【授業の目的・ねらい】 国家試験に出題される検査のうち、小児分野で実施される発達検査および言語系検査について理解し実践することができるようになる							
【実務者経験】 姫路市社会福祉事業団、姫路市総合福祉通園センター・特定非営利活動法人こども発達サポートセンターなどで小児発達分野の言語聴覚療法に従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 小児分野でSTが実施する検査について学び、検査演習を行う（マニュアルの理解、検査結果の処理、検査結果の解釈含む）							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記各検査の内容を理解し、教員の指定した主要な検査項目について実施することができる							
回数	講義内容					準備物(教材)	
1	絵画語い発達検査（PVT-R）の概要について理解することができる					教科書・資料配布	
2	質問-応答関係検査の概要について理解することができる					教科書・資料配布	
3	Reading-Testの概要について理解することができる					教科書・資料配布	
4	STRAW-R 標準読み書きスクリーニング検査の概要について理解することができる					教科書・資料配布	
5	S-S法 国リハ式 言語発達遅滞検査の概要について理解することができる					教科書・資料配布	
6	S-S法の実施手順について理解することができる					教科書・資料配布	
7	S-S法のサマリー記入方法、解釈について理解することができる					第1回小テスト 教科書・資料配布	
8	FOSCOM 対人コミュニケーション行動観察フォーマットの概要について理解することができる					教科書・資料配布	
9	SCTAW 抽象語理解力検査の概要について理解することができる					教科書・資料配布	
10	CHEDY 保育者のための発達障害チェックリストの概要について理解することができる					教科書・資料配布	
11	ADHD, ASD等のスクリーニング検査やチェックリストについて知る					教科書・資料配布	
12	構文検査 小児版について概要を理解することができる					教科書・資料配布	
13	インリアル・アプローチの理論・技法について知る					教科書・資料配布	
14	授業のまとめ 第2回 小テスト						
15	試験対策						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版							
【準備学習・時間外学習】 授業内で学習した検査の概要について復習・検査手技の確認							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 小テストを40点、定期試験を60点として合計100点とする。 合計60点以上の場合に科目を認定する。							